

長崎県立壱岐高等学校

「壱岐を知り、壱岐を守る」～海と海洋資源を守り、海を活かした持続可能なまちづくりを目指して～

歴史の島で育まれる海洋環境意識

玄界灘に浮かぶ古代史の島

長崎県の壱岐島は、国生み神話に登場し、「魏志倭人伝」などにも「一支國（一大國）」と記された古代史の舞台だ。現代では「世界有数の漁場」といわれる玄界灘の海洋資源を活かした水産業がさかんなことから、長崎県立壱岐高等学校では「総合的な探究の時間」などで海を題材とした探究活動を展開してきた。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年行っていた定置網漁体験などが中止された。10月に入り、ようやく班に分かれての魚の解剖実習やポスター発表を実施。「魚の胃・腸の長さや食性」を調査テーマとした理系クラス2年生の林駿介さんと野田夏乃子さんは「相手にわかってもらえるよう、きちんと根拠を示すことに苦労しました」と、伝える難しさを実感できたようだ。



探究活動に励む生徒たちと、壱岐高校OBでもある川上教諭



魚の解剖実習



ポスター発表会



●実施担当

川上吉彦 教諭

●活動のモットー

何事も突き詰めなければ本質は見えない。生徒がそういう姿勢になるように、身近なものを題材にすることでモチベーションをあげようと考えている。

学校概要



「自律 明朗 友愛」を校訓とする伝統校。普通科内の専門コースとして「東アジア歴史・中国語コース」を設置している。

設立：1909年
生徒数：437人
長崎県壱岐市郷ノ浦町片原88



船上での定置網漁業体験

生徒それぞれが感じる環境問題

とはいえ、やはり定置網漁体験などの中止については「やりたかったです」（野田さん）と残念そうだ。同様の無念さは、担当の川上吉彦教諭も抱く。

近年、島では海水温上昇が原因とされる磯焼けが進み、壱岐市は2019年9月、全国初となる「気象非常事態宣言」を発出した。また、漂着ゴミ問題なども深刻化しており、川上教諭は「身近な海での体験を通して環境問題を実感してほしいのですが……」と語る。

ただし、生徒自身はそれぞれに環境問題を感じとっているようだ。砂浜清掃ボランティアに参加した経験のある理系クラス2年生の青柳圭太郎さんは、「海外からのプラスチックゴミの多さに驚きました。まずはその現状を、海外を含めて広く知らせることが必要だと感じました」と解決策にも思いを致す。長く歴史を持続してきた島で、環境のサステナビリティ意識も育まれつつある。

(令和2年度個別助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索